

資料1

指導計画

指導項目	指導時期	指導目標（段階）	指導方法（段階）	指導場面	指導方針との対応	個別の指導計画との対応
あいさつ・返事・お礼をする	4～6月	促されてできる	教師が率先して、あいさつ・返事・お礼をする様子を見せる。	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校 ・保健室で体重測定やケガの手当てをしてもらうとき ・校外学習 ・交流学习 	アイウエオクケコ	日・ア
	7～9月	ヒントカードを見て、あいさつができる	<p>ヒントカード</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">あさの あいさつを しよう</div> <p>を示し、あいさつをすることを思い出すようにする。</p>			
	10～11月	適切な場面で、自発的に言える	あいさつ・返事・お礼の様子をビデオに記録。授業で教師とともに振り返り、よくできたことを賞賛し、Aのがんばりを認め、意欲を高めていく。			
依頼する	4～5月	促されて「～してください」と言える	人に依頼したい時に、「～してください」と言葉で伝えることを知らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域における授業 ・日常生活 	アイウエオクケコ	自・ア
	6月	ヒントカードを見て「～してください」と言える	<p>人に依頼したい時にヒントカード</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">おねがいたいときなんていうのかな？</div> <p>を使い、学習したことを思い出すようにする。</p>			
	7月	自発的に「～してください」と言える	人に依頼したい時の様子をビデオに記録。授業で教師とともに振り返り、よくできたことを賞賛し、Aのがんばりを認め、意欲を高めていく。			
報告する	4～7月	教師に促されて「分かりません」と言える	質問に対して答え方が分からないときに「分かりません」と言うことを知らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域における授業 	アイウエオクケコ	作・ア
	9～10月	ヒントカードを見て「分かりません」と言える	<p>質問に対して答え方が分からないときに、ヒントカード</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">わからないときなんていうのかな？</div> <p>を使う。</p>			
	11月	自発的に「分かりません」と言える	分からない様子をビデオに記録。授業で教師とともに振り返り、よくできたことを賞賛し、Aのがんばりを認め、意欲を高めていく。			

自発的に働きかける	4 ~ 5月	・じゃんけんをするときに「じゃんけんポイ」と言える	・「友達とじゃんけんで決めてごらん」という指示のとき、自分でかけ声をかけるよう促す。	・各教科・領域	アイウケコ	生ア
	6 ~ 10月	・相談するとき、「どうする?」と、友達に聞ける	・「相談してごらん」という指示のとき、 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> そうだんするとき、なんていえばいいのかな? </div> というカードを見て、自分から友達に相談することを思い出させる。			
人に尋ねる	4 ~ 7月	教師に促されて尋ねられる	店員についての情報を知らせ、「聞いてみたら?」とすすめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> しょうひんが みつからないとき なんて いうのかな? </div> をAに見せて、とるべき行動に気付かせる。	・生活単元学習「買い物学習」	アイウエオカキケコ	生イ
	9 ~ 10月	質問カードを見て尋ねられる	買い物の様子をビデオに記録。授業で教師とともに振り返り、よくできたことを賞賛し、Aのがんばりを認め、意欲を高めていく。			
	11月	自発的に尋ねられる				
感想を言う	4 ~ 7月	「何が楽しかった」と言える (主語を入れられる)	「楽しかった」しか言えなかったときに、「何が楽しかったのですか」と教師が聞き、もう少し、詳しい感想が言えるようにする。	・国語 ・各教科・領域	アイウエオカケコ	国・ア 音ア
	9 ~ 10月	ヒントカードを見ながら具体的な場面と具体的内容を入れて、感想が言える	感想を「書く」書いた感想を「読む」、友達の感想を聞く機会を多く取り入れ、自分の考えを広げていくようにする。 「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」のカードを提示して、感想が一語で終わらず、より具体的にし、場面にあった内容を話せるようにする。			
	11月	ヒントカードを見ながら「楽しかった」以外の感想が言える	形容詞や副詞(「どのように」「どんな」)のカードを提示して会話力を豊かにし、感想がより具体的になるようにする。			

謝罪する	4 ~ 7月	教師に促されて、自分の失敗を認める	校外学習の事前指導で、起こりうる失敗例をロールプレーで体験し、その対処を教師の模倣をして練習する。	・生活単元学習	アイ ウエ オク ケコ	生-イ
	9月	教師に促されて「ごめんさい」と言える	校外学習の事前指導で、起こりうる失敗例をロールプレーで体験し、その対処をヒントカード			
	10月	カードを見て「ごめんなさい」が言える	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> あいてのひとに わるいことをしたら なんていうのかな？ </div>			
	11月	自発的に「ごめんなさい」と言える	を見て練習する。 ロールプレーしたときの気持ちをAに聞く。			

資料2

指導の経過

指導項目	指導時期	指導の内容	生徒の様子
あいさつ・返事・お礼をする	4月	・登校時、バスから降りてくる生徒に、努めて明るくさわやかに「おはよう！」と声をかけるようにした。	・登校時は教師からのあいさつに対し、無言で通り過ぎ、靴の履き替えに向かうことが多かった。
	5月	・ヒントカードを見せて、Aがあいさつすることを思い出すようにした。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> あさの あいさつを しよう </div>	・カードは目に入らず、無言で通り過ぎ、靴の履き替えに向かうことが多かった。
	6月	・登校時、バスから降りてくる生徒の様子、その後教室に移動するまでの生徒の様子を自己評価するため、ビデオに撮影し、生活単元学習の時間に見せた。	・ビデオで自分たちのあいさつができていない様子を見て、「よくできている」と評価していた。
	7月	・生徒がバスから降りた後、教師が母親からの連絡帳を見て、二、三言、会話して生徒の反応を見るようにした。生徒が教師の話のってきた様子が見受けられたら、「今日も、たくさんの人にあいさつしようね」と声をかけるようにした。	・登校の時間、教師と昨日のできごとなどを会話してAの気持ちがほぐれたのか、出会う教師にあいさつされればAもあいさつを返すことができた。しかし、自発的にあいさつすることはほとんどなかった。

	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の目標の一つに「気持ちのよいあいさつをする」ということを掲げ、帰りの会で確認をするようにした。 ・生活単元学習でお店を開くことになったため、接客練習を行った。接客練習では、「気持ちのよいあいさつ」「笑顔」を目当てにしてすすめ、その様子をビデオに記録し生徒に見せた。その際、特に意識してほしい箇所を停止して見せるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会で「気持ちのよいあいさつをしよう」と確認した直後には、自分からすすんで多くの教師や友達にあいさつをすることができた。 ・目当て「気持ちのよいあいさつ」「笑顔」を意識して接客しようとする態度が少しずつ身に付いてきた。
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・作業所見学会で作業所の職員に「学校で今、学んでほしいことは、あいさつがきちんとできること」と言われたことを受け、あいさつの重要性を話題にすることを意識的に多くした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任だけでなくほかの場面でも、あいさつの重要性を耳にし、さらに朝の会等でもあいさつが話題に上ることで「あいさつ」への意識が深まってきたようで、登校直後に担任が「おはよう」と声をかけると、すぐに「おはよう」と返ってくるようになってきた。
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで劇をすることになった。クラスの友達Bが「朝のあいさつがさわやかに言えること」をテーマにし、何度も練習している様子をAに見せ、「あのあいさつはいいね。」と教師がAに語りかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝のあいさつがさわやかに言えることが、とても大切なこと」という自覚がAに出てきたようで、登校直後のAに教師が「おはよう」と声をかけると、すぐに「おはよう」と返せるようになった。
依頼する	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・Aが口に出して「はかせてください。」と言わずにいたので、「装具をはきたいの？」と、教師から聞いていた。自分から言葉で人に依頼することも大切であることを繰り返し伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・装具を見つめているが、口に出して「はかせてください。」と言わずにいた。教師から「はくの？」と聞かれれば「うん」と言うだけだった。
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・「装具をはかせてほしいときには『やってください』と言ってね」と言い、その後ヒントカード <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;"> おねがいしたいとき なんていうのかな？ </div> を見せるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒントカードを見れば、「やってください」と言えることが増えてきた。
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらから装具に関して触れることをやめて生徒の反応を待った。依頼事項の中でも毎日の日課については、定着しやすいように同じ態度をとった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の日課である装具の装着に関しては「やってください」と言えるようになった。
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできないことに対し、強引に自分でやって、ものを壊してしまったときをとらえ、「手伝ってください」を言えばよいことを伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ひとりでできないことに対してむきになって自分で解決しようとしたため、ものを壊し、いらいらした表情を見せた。

	9月	・Aが困っている様子を見て、すぐに「手伝おうか？」と聞くのをやめた。しばらく生徒の様子、困ったときどうするかを見守ることにした。	・日課でないことに関しては、自分でやってみて、少し考えてから、「やってください」と言えるようになってきた。	
報告する	4月	・質問しても生徒が黙ったままが多いので、「分からない？」と聞いていた。	・答えが分からないとき、無言でいることが多い。「分からない？」と、聞かれればうなずいた。	
	5月	・質問に対し、生徒が黙ったままの時、「分からないときは、『分かりません』と言ってね。」と伝えた。時々、「分からない？」と、聞いていた。	・分からないときには依然として無言でいるが、クラスの友達が「分かりません」と言えるようになったのを少し意識的に見るようになってきた。	
	9月	・質問に対し、生徒が黙ったままの時、ヒントカード <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;"> わからないとき、 なんていうのかな？ </div> を提示した。 ・それでも黙っているので、繰り返し「分かりません」と言うように促した。	・ヒントカードを見ても無言でいた。「分かりませんと言ってね」と教師が言葉で付け加えたところ、機嫌を損ね、学習意欲が低下した。	
	10月	・質問に対し、生徒が黙ったままの時、少し待つようにした。	・分からないときには何かを相手に伝えなければならないということが分かってきたようで、少し考えてから、「分かりません」ということがわずかながら増えてきた。	
	11月	・「昨日はどこに行ったの？」と聞いた後、Aがすぐに答えなかったが、教師が「？」と聞かずに、Aの顔を見て反応を待った。	・「昨日はどこに行ったの？」と教師に聞かれた後、しばらくしてから「行ったよ」と答えた。	
自発的に働きかける	じゃんけんの場面	4月	・「じゃんけんポイ！」と教師が声かけをして、じゃんけんする様子を見せた。	・じゃんけんする場面で、周りから掛け声をかけなければ、いつまでもじゃんけんしないでじっとしていた。
		6月	・教師からの声かけをやめた。代わりに「『じゃんけんポイ！』と言ってごらん。」と生徒に伝えた。	・相手が黙っていても、自分から『じゃんけんポイ！』の掛け声をかけられるようになった。しかし、時々、教師が声をかけるまで無言でいる様子も見られた。

	7月	<ul style="list-style-type: none"> 教師が『『じゃんけんポイ！』と言ってごらん。』と生徒に伝える代わりに、という行動カードを見せるようにした。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> じゃんけんのとき なんていったら いいのかな？ </div>	<ul style="list-style-type: none"> 自分から『じゃんけんポイ！』の掛け声をかけられるようになってきた。
	9月	<ul style="list-style-type: none"> 教師は生徒の様子を見守るようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの場面で自分から『じゃんけんポイ！』の掛け声をかけるようになってきた。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> 教師は生徒の様子を見守るようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスの友達からもリーダーとして、認められるようになったため、Aは、声かけ係をすすんでやるようになった。
相談する場面	6月	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が黙っているので、「みんなで考えを出してごらん」と教師が声かけをした。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達同士で相談する必要がある場面ではいつも、口を閉ざしていた。
	7月	<ul style="list-style-type: none"> 教師からの声かけをやめた。代わりに『『どうする？』と言ってごらん。』と生徒に伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師から言われれば、自分から『どうする？』と声をかけ、相手の気持ちや考えを聞きだすことができてきた。
	9月	<ul style="list-style-type: none"> 教師が『『どうする？』と言ってごらん。』と生徒に伝える代わりに、 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> そうだんするとき、なんていえば いいのかな？ </div> <ul style="list-style-type: none"> というヒントカードを見せるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒントカードを見れば、自分から『どうする？』と声をかけ、相手の気持ちや考えを聞きだすことはできた。しかし、自分の考えを相手に伝えることはできない。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> 教師は生徒の様子を見守った。すすんで司会をしているAの様子を見て、その場でAを賞賛し、保護者に連絡し、クラスではみんなに紹介した。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談場面になると「自分が何かしなくては」という気持ちになっているようで、すすんで司会を務めることが見られた。ほめられるととても、満足そうな表情をしていた。
人に尋ねる	5月	<ul style="list-style-type: none"> 買うもの、店員の特徴を写真で示し、買い物の手順や金銭の事前学習をした。 「今、店員さんに聞いてごらん。」と教師が生徒にタイミングを伝えた。 買う商品の写真カードを手がかりに買い物 をするようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物の大体の流れは把握しているらしく、落ち着いて行動できた。 教師にタイミングを伝えられれば、店員に、写真カードを提示して「 はどこにありますか？」と聞いた。

	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・店員に声をかける内容を思い出すためにヒントカードを活用した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> しょうひんがみつからないとき なんて たずねるの？ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・次に何をすればよいのかがわかり、以前より落ち着いて、店員に写真カードを提示して「<input type="text"/>はどこにありますか？」と聞いた。
感想を言う	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・「<input type="text"/>の感想を話してごらん」と生徒に問いかけた。生徒が「楽しかった」しか言わないので、「それは <input type="text"/> ということ？」と教師が代弁した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で感想を求められた時、どの場面でも「楽しかった。」と答えていた。教師に「それは <input type="text"/> ということ？」と聞かれると「うん。」とうなずくだけだった。
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・登校したとき、家庭からの連絡帳を読むと同時に、日記も読み、生徒と昨日のできごとなどを話題にするようにした。 ・クラスの友達の日記を教師が音読し、Aにも聞こえるようにし、Aが文体や内容をモデルとして取り込んでいけるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は、「今日はどんなことがあったの？」と母親と一緒に4～5行の日記を書いていた。だんだん自分で1日を振り返って「今日 <input type="text"/> があった。 <input type="text"/> が楽しかった。明日、 <input type="text"/> をがんばりたい。」と、今までの2倍近くの分量を書くことができるようになった。
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から音楽の授業で、1時間に1曲ずつ曲を聴かせ、「それを聴いたときどんな気持ちになったか、どんな風景を思い浮かべたか」などをグループ全員の生徒と教師に発表してもらいようにし、Aがモデルとして取り込んでいけるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の授業で、曲を聴いての感想を求められると、「優しい感じの曲だった」「元気な感じがした」などと答えるようになった。何でも「楽しかった」と答えていた頃に比べ、その場にふさわしい内容を表すことができるようになってきた。
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業で、箱の中に隠してあるものについて、形、色、用途などを相手に伝え、あててもらおうクイズをした。 ・課題をスモールステップで設定し、常に達成感を得られるようにした。また、同じ課題を生徒が飽きないように変化をもたせながら継続して学習した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものを、名前だけでなく、色や形、手触り、用途などの側面から捉えて表現することに慣れてきた。 ・家で、祖母に電話をかけたとき、「おばあちゃんに会いたくなかったから、とまりに来てね。」と、今までになく、豊かな表現ができるようになった。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートで学習の目当てを確認してから、お店を開いた。また、お店での活動をビデオで振り返る場面においても、目当てのワークシートを使用した。その際、「ワークシート <input type="text"/> 番を指差して」という指示を出し、Aが話に集中しているか確認しながらビデオを見せた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「学習の目当て」にそって、ビデオを見て、自分の活動を振り返るようにしたところ、自分の活動のよかった点、改善点がしっかり把握できた。感想を発表する場面では、ワークシートをもとにしながら発表することができた。

謝罪する	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ Aに対し、「こんなときは『ごめんなさい』を言おうね。」と伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活で謝罪をする場面はたくさんあったが、自分の非を認めることができなかった。「ごめんなさい」と言うことができず、逆に不機嫌になってしまうことが多かった。
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平常時、生徒が失敗したという想定で簡単なロールプレーをした。 ・ Aが友達Cに車椅子で足を踏まれたとき、教師がCに『ごめんなさい』を言うようにさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロールプレーに関しては生徒が不慣れなため、あまりうまくいかなかった。 ・ Aは、Cに「ごめんなさい」を言われる前に、「いいよ、言わなくて。」と先回りして言った。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人とぶつかったとき、ヒントカードを見た。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> あいてのひとに わるいこと をしたら なんて いうのかな？ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ごめんなさい」と言うことができず、逆に不機嫌になってしまうことが多かった。
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分の直したいところ」と「どのようにしたらいいのか」を考えるようにし、それを取り入れた劇をした。 ・ 「悪いことをしても、すぐに『ごめんなさい』が言えない自分」と「悪いことをしたとき、すぐに『ごめんなさい』が言える自分」の両方を演じるストーリーを作り、両方を意識して演じるようにした。 ・ 練習のたびに「今日の目標」を決め、それに向かって練習をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Aは、「ごめんなさいが言えないところを直したい」と答えた。 ・ 劇の中で友達にぶつかる場面では、本当に不機嫌になり、怒ってしまったり、黙り込んでしまったりすることが多く見られた。 ・ 「謝罪する自分」と「謝罪しない自分」とでは、「『謝罪しない自分』の方が気持ちいい」と答えていた。
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 録画したビデオを見て、「今日の目標」の達成度はどうだったか、「『ごめんなさい』と、きちんと言えたか」などを振り返っていった。 ・ 練習ごとに、Aのよいところをほめるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し、劇の練習を重ねるうちに、劇の中で「ごめんなさい」を自然に言えることが増えてきた。 ・ 「謝罪する自分」と「謝罪しない自分」とでは、「『謝罪する自分』の方が気持ちいい」と答えるようになった。 ・ 生活場面で人とぶつかったときに、「ごめんなさい」と言えることが見られた。

資料3 個別の指導計画

網掛けの部分は「人とのかかわる力を高める」とことに関連のあることから

平成17年度 個別の指導計画

群馬県立 養護学校

記入日	H17年4月15日	修正日	月 日 月 日	記入者	
氏名	A (学部 年)				

1. 担任チームのかかわりの基本的姿勢

将来、本生徒が人とのかかわりの中で、よりよく、円滑に生きていけるように、また、作業所などで仕事ができるように、さらに余暇を楽しく過ごせるような援助をしたいと考える。

本生徒は新しい刺激や環境の変化、予期せぬ出来事などに対して過敏に反応し、自分で情緒面のコントロールができなくなってしまうという傾向がある。このことを少しでも軽減し、情緒面のコントロールが自分でできるように援助していくことが大切である。

そのためには、本生徒の学習面や生活面で成功体験を数多く設定し、自信がもてるように、また、教師が本生徒の行動をよく観察し、良い言動が見られたときにはプラスの評価をし、たくさん賞賛を与えるよう心がけたい。

休み時間等には、本児の得意分野（運動面・音楽面・遊び）でのかかわりを意識的に多くもち、充実した学校生活を送れるよう支援していきたい。

学習面については、時間や金銭の扱い、数唱など、将来の自立的な生活に少しでも結びつくような体験を多く取り入れた指導の充実をはかりたい。

家庭学習では反復練習により、基礎的な事項の定着をはかっていきたい。

学校生活では、人とのかかわりの中で自分の言動を振り返ることができるようにしたい。例えば、本生徒に好ましくない言動が見られた場合にはそのことが良いことかどうかをその場で考え、あいさつ、返事、感謝、謝罪、依頼等の言葉が適切に使えるようにしたい。また、校内においては一人で目的の場所への移動が安全かつ確実にできるように、また、人との対応（あいさつ、用件を確実に伝える、お礼を言うなど）をたくさん経験できるようにしたい。このようことの積み重ねの中で、周囲に認められるような環境づくりと、本生徒が自信を持って生活し、新しい環境や活動、刺激に対し、パニックに陥らないである程度適応でき、自己をコントロールし落ち着いて、人と協調して生活できるようにしたい。

また、転倒時に自力で起き上がれるように筋力やバランス感覚をつけておく、体重増加の抑制も課題となる。このために、日常的に体を動かす機会を極力設けたい。

余暇の過ごし方では、特に総合的な学習や自立活動の時間を中心に、一人でも楽しく継続できる趣味的なものを探り、広げていきたい。

2. 教育目標

長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家業・家事の手伝いができ、ある程度の自立ができる。 ・ 読み・書き・数学など、日常生活で必要とされる基礎的な学力を身に付ける。 ・ 趣味や特技を身に付ける。 ・ 情緒のコントロールができ、人とかかわる力を高める。 ・ 体重の増加を抑制する。
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活での基本的な知識の習得や経験をする。 ・ 学習の基礎基本的事項（小学2・3年程度の漢字の読み、小学1年程度の漢字の書き取り、数唱、時計、金銭についての学習等）を身に付ける。 ・ 得意分野（体育、音楽、家庭科分野）の技術の向上。 ・ たくさんの体験を通して、人とのかわりに自信を持つ。 ・ あいさつ・返事・依頼・謝罪の言葉がすすんで言えるようにする。 ・ プール学習や階段・スロープでの移動などに積極的に取り組み、体重の増加を抑制する。

3. 指導計画

領域・形態	指導目標	指導内容・指導方法・留意点など
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体重増加を抑制、筋力アップ、ストレスの発散を図る。（健康の保持・心理的な安定） ・ パソコンの操作性の向上（環境の把握） ・ 視知覚能力の向上を図り、自信を付け、できる喜びを体得できるようにする。（環境の把握） ・ 文字や絵が丁寧にかけるようにする。（環境の把握） ・ 将来の生きがいや進路について考えることができるようにする。（心理的な安定） （ア）コミュニケーション能力の向上。（コミュニケーション） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プール学習や階段・スロープの積極的利用により、筋力アップと、健康・体力の増進、肥満予防、右半身（右片麻痺）の拘縮・変形の防止、ストレス発散を図る。 ・ パソコンのマウスの操作、スタートとシャットダウン、画面を見ながらのキーボード操作などを重点的に行うようにする。 ・ 視知覚能力を促進させる活動を意識的に多く設定し、反復練習をする中で成功体験をさせ、できる喜びや学ぶ楽しさを感じるようにする。 （ア）書道や絵手紙を書くことで、丁寧に書くことを体験させる。その際、道具の準備・片付けも一人でできるように見守り、手伝ってほしい場面では自分で依頼するように促す。 ・ 趣味（特に家庭科・音楽・体育分野）を拡大し、作業的な学習にも興味を持つようにする。 ・ 休み時間の過ごし方や家庭での余暇活動などについて話合いができるようにする。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">日常生活の指導</p>	<p>(ア)すすんであいさつができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日付や曜日の前後関係の理解、カレンダー、天気や温度調べ、予定などを知り、見通しを持って行動できるようにする。 ・約束を守るようにする。 ・校内の指定された場所へ一人で安全に移動することができるようにする。 ・体重増加を抑制できるようにする。 <p>(イ)友達に対し、乱暴な言動が見られた場合、反省し、すみやかに謝罪ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情緒を安定させ、人とのかかわりが円滑になるようにする。 ・もちもの整理ができるようにする。 ・自分の役割や友達との好ましいかかわり方を考え、すすんで行動できるようにする。 	<p>(ア)様々な教師・職員に積極的にあいさつをすることから始め、人とのかかわりを広げていく。(社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、朝の会や帰りの会で日付や曜日を確認することで、今日、明日の予定を知り自分の生活の流れを把握できるようにする。(社会) ・授業での校内移動の際などには、先に行くことなどを担任にきちんと告げてから移動するように声かけをする。(社会) ・校内の決められた場所まで、安全に一人で移動できるような場面を設定、実行させ、その様子を見守る。(社会) ・移動の際にできるだけ階段やスロープを利用するように誘う。(保健体育) ・給食は小盛りにして、体重の管理ができるようにする。(保健体育・職業家庭) <p>(イ)友達に対して、乱暴な言動が見られた場合、タイミングを逃さないようにし、1対1で反省できる雰囲気を作り、謝罪できるようにする。(社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロッカーの整理がしやすいように教師が声をかけたり、整理しやすいように環境を整える。(社会・職業家庭) ・その日の自分の当番の仕事などを、主体的に行えるように見守り、すすんでできたことは賞賛し、自信をもてるようにする。(社会・特活)
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">生活単元学習</p>	<p>(ア)今後の学校及び家庭生活において、自立的な生活に必要な事柄を身に付けるようにする。</p> <p>(イ)場面に応じた状況判断や主体的な行動ができるための基礎をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割意識・協調性を養う。 ・集団生活のルールがわかるようにする。 ・体験的な学習を積むことで、地域や自然について興味を持ち、自分とのかかわりについて考えることができるようにする。 	<p>(ア)「劇をしよう」「お店を開こう」「クラスのお楽しみ会をしよう」を通して、役割や協調性、主体性を身につけられるようにする。(国語・社会)</p> <p>(イ)「買い物に行こう」「電車に乗ろう」「郵便局に行こう」学習を行い、金銭や人とのかかわり、マナーについて学べるようにする。(数学・社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サラダを作ろう」を行い、材料の扱い、物の量と重さ、火や包丁の扱いになれるようにする。(職業・家庭・数学) ・電子レンジやガスコンロを使って、安全面・衛生面に注意しながら簡単な調理方法を身に付けるようにする。(職業・家庭) ・「野菜を育てよう」において、土作り、苗上、水くれ、草むしり、害虫駆除、収穫などを行うようにする。(理科) ・活動の内容を提示する際には、見本を示したり、図式化したりするなど、分かりやすく提示する。(自活) ・よく「見て」作業に当たるよう、声をかける。(自活)
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">作業学習</p>	<p>(ア)教師の説明をよく聞いて作業内容を正しく理解し、集中して作業に取り組むことができるようにする。自分の状況を報告できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンのキーボードの使い方を向上させるようにする。 ・パソコンのスタート、保存、終了などの基本操作が一人でできるようにする。 ・ミシンを使って、生活に生かせるものを製作するようにする。 	<p>(ア)教師の話をよく聞いて、安全に作業に当たり、決められた仕事が終了したときや困ったことが起きたときには、自分から報告できるようにする。(社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日記や原稿入力などの折に、パソコンの基本操作を繰り返し学習するようにする。(自活) ・教師の援助を受けながら、安全に注意して作業を行うようにする。(職業・家庭)

<p style="text-align: center;">国 語</p>	<p>(ア)日常生活に必要な国語についての理解を深め、表現する能力と態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助詞を正しく使ったり、文の主述に気を付けて作文する能力を育て、文や文章を正しく表現したり、表記できるようにする。 ・自ら進んで読書に親しみ、読書を楽しむ態度と習慣を養う。 	<p>(ア)教材文を読んで話の内容を読み取ったり、登場人物の気持ちになって表現したり、内容に見合った自分なりの感想や意見が発表できたりするようにする。形容詞や副詞を使って、できるだけ豊かに表現できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員や友達と一緒に合わせて音読・群読を行うことで、協調性を養い、音読の楽しさを味わえるようにする。 ・身近に用いられる漢字を取り上げ漢字の読みを学習したり、書き順や字形に注意したりして書けるように繰り返し学習する。漢字カルタなどを使って、楽しみながら活動できるようにする。また、ひらがな・カタカナ・簡単な漢字を書く際に、人に見やすい字を書くように注意を促し、意識付けできるようにする。 ・図書室で読書の時間を設けることで多種多様の書物に触れ、興味・関心の対象を広げることができるようにする。
<p style="text-align: center;">数 学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な数の概念を理解して計算をし、日常生活の中で用いる。 ・長さ、重さなど量の概念を理解し、日常生活の中で用いる。 ・金銭や時計の使い方に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数唱(大きな数、途中からの数唱、逆唱など)、10ずつまとめて数える、数の大小の比較などを行い、数の概念を理解する。また、長さや重さなどの概念を、日常生活の中で使用するものを例に挙げて触れさせ、理解できるようにする。 ・一桁同士の加法から、徐々に数の大きいもの同士の加法や一桁の減法にも慣れていくようにする。また、文章題などで加法の考え方を利用できるようにし、生活の中でも加法や減法の考えを用いることができるような場面を設定して、日常生活に生かせるようにする。 ・初めて行う計算の際には補助としてマグネットやブロックなどの具体物を用いて考えやすいようにする。 ・買い物の場면을想定し、実際に買い物に行く活動を通して金銭の扱いに慣れるようにする。 ・時計の仕組み、短針・長針の意味や時刻の表し方を理解し、時計を使って時刻を読むようにする。 ・何度も繰り返し復習を行い、学習内容の定着を図る。
<p style="text-align: center;">音 楽</p>	<p>(ア)自分の感じたことを表現できる力を高めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現する喜びや音楽を聴いて感じる喜びを体験できるようにする。 ・多様な音楽に興味・関心を持つようにする。 ・音楽の美しさや楽しさを味わい、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 	<p>(ア)いろいろな音楽に触れる機会を増やし、興味を持つようにする。曲を聴いて感じたことを自分の言葉で表現できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンポやリズムに気をつけながら楽しく歌うよう、雰囲気作りに努める。 ・さまざま楽器の表現技能を高めるようにする。 ・友達と合奏する喜びを体験できるようにする。 ・様々な音素材を用いて、子どもの自由な発想による即興的な表現や思い浮かんだメロディやリズムを生かし、教師が形を整えてフィードバックし、満足感を与えるようにする。

美術	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく美術の学習に取り組むようにする。 ・身近な事物や自然を観察する力を高め、表現する力を育てる。 ・自然や美術作品、友達の作品などについて美しさを感じ取る力を育てる。 	<p>(絵画や彫刻)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然や身近なもの、人物などを観察し、部分のつながりに注意して制作できるようにする。 ・材料や用具を丁寧に扱いながら制作できるようにする。 ・自分の気持ちを大切に表現できるようにする。 <p>(デザイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用途や機能に気づくようにする。 ・素材や材料などを丁寧に扱いながら製作できるようにする。 <p>(鑑賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術作品や友達の作品の中で自分の好きなものを選べるようにする。 ・生活の中にあるデザイン作品や工芸作品の役割に気づくようにする。 <p>(配慮事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根気よく丁寧に制作できるよう声かけなどを工夫しながら指導する。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わえるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 ・各種の運動を行う中で、自己の体の様子や運動能力を知り、体力や運動技能の向上を目指し、たくましい心身を育てる。 ・運動における競争や協同を通して、進んで仲間と協力する姿勢や公正で規則を守る態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動として定着した、音楽をかけながらの5～10分間走に取り組むことで、自発的に取り組めるようにする。また、準備運動の実施により、実態に応じた最低限の運動量を毎回の授業で確保できるようにする。 ・ストレッチや柔軟体操を行うことで、体の柔軟性を高められるようにし、けがや事故の防止に努め、安全に運動に取り組めるようにする。 ・年間を通して、「体づくり運動(各種ゲーム)」、「器械運動(マット運動、長縄跳び、トランポリン)」、「陸上競技(短・長距離走、ジグザグ走、ボール投げ、ボール転がし、跳躍)」、「球技(バスケットボール・ハンドボール、サッカー、風船バレーボール、ゴロバレーボール、卓球・バドミントン、ソフトボール・野球)」、「ダンス」に取り組む。特に、「球技」では、ルールがわかるように実践中に説明を加え、友達と仲良く楽しんで運動できるように工夫する。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験の中から、自ら学びたいことを選び、意欲的に活動できるようにする。 ・情報を交換したり、相互にアドバイスをし合ったり、友達とかわりあったりできるようにする。 ・自分自身で学んだこと(よかったこと、反省点等)振り返って次の活動に生かし、学習の価値を高めながら粘り強く活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動を充実したものにできるよう、自分の好きなこと、自分にできることを見つめ、決定し、取り組むようにする。 ・表情だけでは興味関心の深さを読み取ることが難しいので、本生徒の考えを十分に聞いて、汲み取っていくようにしたい。 ・「自分の希望を表出する」ことや「自分で決定する」ことを大切にしていこう。 ・自分の将来のことを考え、近い将来に役立ちそうな興味のあるものについて調べ、体験できるようにする。